

# 地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	事業所独自の理念があり、地域密着型サービスとしての理念としても十分活用できるものとなっている。	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	「あなたの立場に立ち、あなたを感じ、あなたを理解できるようなサービスをめざします。」の理念の下に認知症の理解を深め「スタッフも環境」との自覚で日々のケアに取り組んでいる。	
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	家族会や地域運営推進会議等で理念を理解して頂く様、取り組みなど伝えている。	
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	近隣の方々と挨拶を交わし気軽に声を掛けて下さったり、立ち寄って下さるよう努めている。近隣を散歩したり行事等に参加した際は、積極的に挨拶を交わしたり話をしている。	
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	地域の一員として町内会の運動会に参加したり、2校の小学校と交流学習を行っている。食材の調達を行うため朝市に買い物に行っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	認知症ケアの研修会等をお知らせしたり、地域の暮らしに役立つことの協力は惜しまない。ふれあいより高齢者生活応援サポーター養成講座(長寿園独自の講座)を3名受講した。小学生とごみのリサイクル等の勉強会の開催もしている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の結果はミーティングで報告し更なるケアの充実に生かしている。成果が事故を防いだり病気の予防につながっている。又、評価結果についてはコピーして家族にも配布し、理解を図っている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	推進会議の中で現在の状況、又は取り組んでいる内容について報告し意見をもらえるようにしている。又、質問等には会議の中でお答えしたり認知症については専門性を生かしている。	○	推進メンバーと一つの目標を定め、一つひとつの会議の中で具体的に進めていけたらと考えている
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	GH協議会の会長施設としても役割をにない、市町村担当とは十分に連携を図り、情報交換もとっている。又、認知症サポーター養成講座も積極的に行っている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	成年後見制度制度の研修をうけ理解を深めた。入居されている家族の中には活用を必要とされている方もいるのでアドバイスは行っている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会や資料を提供し高齢者虐待防止法に関する理解や遵守に向けて取り組んでいる。虐待及び身体拘束については、常にテーマとし、法人の取り組みとしても防止にむけて委員会を設けている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には事業所のケアに関する考え方や取り組み、退居を含めた事業所の対応可能な範囲について説明を行っている。又、状態の変化においては、随時、個別で話し合い要望に沿うようケアを行なっている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の言葉や態度から思いを察するように心がけている。又、利用者の不安や意見はミーティングの中で話し合い日々のケアに活かしている。家族の来宅時に「〇〇様は何か言っていられませんか」の声かけを行っている。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	ご家族の面会時に状況を報告したりご家族の近況やご意向を尋ねるようにしている。遠方の方には、こまめに電話をして様子を知らせている。苦情受け付け担当者を掲示し第三者委員を選任している。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	第三者委員会を設置している。家族会や面会時に問いかけ、話を頂けるような雰囲気作りに留意している。個別での面談を随時開催したりして、意見についてはミーティングで話し合い反映させている	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の要望や意見を聴くように心がけている。主任との連携を日々とる中で、職員の連携状況やケアの環境を確認して、問題があるようならば個別に面談を持って対処している。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	現在の入居者の状況に応じたスタッフ配置を取っており、重度化への対応や見取りへの取り組みを想定した職員確保を行っている。	
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	移動や離職がやむを得ない場合は、日常のケアに影響が及ばないように配慮している。基本的には職員を固定化している。	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>5. 人材の育成と支援</b>			
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会を2ヶ月に1回、又は法人外の研修は積極的に平等に受けられるように配慮している。資格取得も積極的に促している	
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大隅地区認知症グループホーム協議会の活動を通して、交流や研修の機会を持っている。法人内のグループホームとの交流を図りサービスの質の向上に努めている。	
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員のストレス軽減の為、日頃よりコミュニケーションを良く取るよう心がけている。また、法人内の取り組みで旅行・レクリエーション等随時実施している。	
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	職員が向上心を持って、働けるよう職能評価を行なっている。又、アンケート調査を行い現在の状況等を把握しようと努めている。職員の資格取得に向けた学びの場や情報の提供等の支援が行なわれている	
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>			
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	サービス利用についての相談があったときは、必ず本人や家族と会い、心身の状態やそれぞれの思いに向き合うように努めている。又、見学や遊びに来ていただき職員や他の利用者様と過ごす機会をつくり、本人に受け入れられるような関係づくりに努めている。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	ご家族から、これまでの経緯についてゆっくり聴き、何を求めているのか、またご家族同士の意見の違いや、思いを理解しながら受け止めるように努めている	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談や問い合わせ等があった場合、まず、現在の状況、状態、抱えている課題について把握する。必要に応じてグループホームの空き状況を伝えたり、相談窓口となる機関につなげられるように説明している		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人、家族に見学してもらったり、遊びに来て頂くことから始めている。又、職員が住まれている場所に出向き生活している様子を見たり状況を伺っている。その後入居のタイミングや方法について話し合いながら行っている		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	利用者の得意とする力を発揮してもらったり、畑の野菜の成長や収穫を楽しみにされ野菜づくりや料理等の共通の話題で季節を味わったり思い出話を引き出している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	利用者の思いや様子を伝えたり、ご家族の思いも一緒に聴きながら一緒に考え話し合う場面を作っている。遠方のご家族とは、連絡を取り合っているが十分に話し合う事が厳しい。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	家族、本人の思いや状況を見ながら、外出や外泊を進めたり行事へ誘い、一緒に過ごす機会を作っている。又、来宅時にはゆっくりと過せるような雰囲気作りや、ご本人とご家族の潤滑油となる様に心掛けている		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	行きつけの美容院、ディサービス・長寿園等に行き、継続的な関係作りに努めている。馴染みの人と出逢う機会になっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士の関係性について職員が十分把握しており個別に話を聴いたり共同作業、食事や入浴への声かけを利用者にしてもら等、関わり合いの場面を作っている。食後はソファに座り談笑されながら落ち着いて過ごされている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他の事業所へ移られた方のお見舞いに行ったり買い物等で出会った家族との会話も行なえている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の言葉や行動、また日々の関わりの中から見えてくる状況を確認しながら思いをくみ取る様に努めている。また家族からの希望も聞いている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時には自宅へ訪問し、ご本人やご家族より日頃の生活の様子や、どのような暮らしぶりだったかを聴き取るようにしている。又、サービス利用をされていた方については、担当者より様子を伺っている		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	利用者一人ひとりの生活のリズム、ペースを理解すると共に、本人のできる事、持っている力を見つけられる様に関わりの中で工夫している		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ご本人やご家族より、思いや意見を聴き反映させるようにしている。ミーティングにて意見を交換しモニタリングを行なっている。ご本人の意見が聴けない時は、利用者同士の会話や行動の中で発せられた言葉をくみ取る様にしている		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	1回/月は利用者の状況を確認しあい、期間が終了する前に見直しをしている。状態が変化したり、認定結果に変化があった場合は、終了前でも検討見直しを行なっている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者の状態変化や暮らしの様子等を、個々のケア記録に記載している。職員間の情報共有のため、連絡ノート等を活用している		
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者の体調変化(急な熱発、痛み等)に主治医や協力医療機関の医師と連携を図り、担当の看護師に相談支援している。楽しみごとでは母体の長寿園やディサービスの行事に積極的に参加している。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	小学校との交流や、母体施設の長寿園及びディサービスの方々との交流を行なっている。また、地域の運動会への参加や小学校の学習発表会への誘いにも積極的に参加している。今年もGH協議会主催のセミナーで、利用者スタッフで発表を行う。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	3B体操、音楽療法等を活用している。また法人内の行事等へは積極的に参加し、資源の活用に努めている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターと情報交換は行なっているものの連携を図り協働している状況はない。	○	他ではどのような連携の事例があるか参考までに教えていただきたい。
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	協力医の他に利用前からのかかりつけ医での、医療をうけられるように通院介助を行なっている。複数の病院受診が必要な場合には、ご家族の協力を頂くこともある。又病状によっては訪問看護の活用等を行なっている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	記録等の個人情報の取り扱いには注意している。ミーティングの折に利用者への言葉かけや対応に配慮されているかを話し合い、意識向上に努めている	
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	生活の中で複数の選択肢を提案したり、「する」・「しない」等、ご本人自身が決める場面を作っている。本人のもつ力をエンパワメント出きるような支援を心がけている。意思疎通が困難な方には、表情や行動にて読み取る等工夫している	
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかな1日の流れはあるが、一人ひとりの体調やペースに合わせて生活できるように支援している。特に散歩時は体力に差があるため個々に合わせた距離や方法の援助を行っている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容 美容は本人の望む店に行けるように努めている	特に外出時や発表会等の機会には化粧やおしゃれを楽しんでもらえる様に取り組んでいる。カット等本人の希望にそってお連れしている。日頃も服装や整容等十分に配慮している。	
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者一人ひとりが出来る事を(食材の準備、盛り付け、片付け等)共に行い、同じテーブルを囲んで楽しく食事が出来るよう雰囲気作りを大切にしている。介助の必要な方には本人のペースや食べる意欲をそこなわない様に配慮しながら支援している	
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつ(甘いお菓子、あめ等)については本人の様子や時間を見ながら楽しめるようにしている。又、飲み物等については、意外に好まれる物も出てきた為、こだわらずに提供している	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	排便については、下剤に頼るのではなく、トイレでの腹部マッサージを行い、自然排便を促している。リハビリパンツ等を使用している方も定期的にトイレに誘ったり、見守ったりして、使用量が減るように支援している		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の希望を確認して入っていただいている。入浴の楽しみを感じられるように一人ひとりの時間をゆっくりととっている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	なるべく日中は活動を促し生活リズムを整えるように努めている。一人ひとりの体調や疲れ具合に合わせて休息をとって頂いている。休息は、ご本人の希望により畳コーナーや仲のよい方同士で休む等を支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人ひとり得意な事を発揮してもらえるような場面を作っている(洗濯物たたみ、歌をうたう、漬物作り、畑作業等)地域の行事への参加や畑の野菜の世話など楽しみの一つになっている		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	一人ひとりの能力に合わせて、またご家族と話し合い所持する金額を決めている		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ご本人の体調や希望に合わせて買い物、ドライブ等に出かける。外出が困難な方は、わずかな時間でも近隣を散歩するよう努めている		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	ご家族と共に外出する機会を作ったり、「OOに行きたい」「家に帰ってみたい」との思いには出かけられるように努めている		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎年の年賀状は、スタッフの支援のもとご本人に書いて頂いている。贈り物や手紙が届いた時は、電話をかけたり返事を出せる様支援している		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	おおよその面会時間は定めているが、ご家族や面会者の事情に応じて柔軟に対応している。お茶を飲みながらゆっくり会話が楽しめるように、また帰られる時は一緒に見送ったり次の面会へとつながる様配慮しながら声かけをしている		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束は行っていないが、利用者の転倒、転落等を考慮した行為等を振り返り、身体拘束に類したことが行なわれていないか等常に話し合う機会を作っている		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は玄関や食堂の鍵は掛けずに自由に出入りできる暮らしを支援している。利用者一人ひとりの外出のサインを見逃さないように声を掛けたり一緒に着いて行く等、職員同士が状況の把握に努めている		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員は利用者と同じ空間で記録等の事務作業を行ないながらざりげなく全体を把握し居室で休んでいらっしゃる方には、随時声を掛けたり、お茶に誘っている。夜間もその日の利用者の状況に合わせ、すぐに対応できるよう居場所を工夫している		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	保管するものと、使う時に注意が必要なもの等に分け、危険を防ぐ取り組みをしている		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	日々の中でヒヤリハットやインシデントレポートを記録しカンファレンスの中で今後の予防策を検討し、職員の共有認識を図っている。又、同時に利用者の状態から今後予想される危険性についても把握するように努めている		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	応急手当の勉強会を実施したり、緊急時対応についてのマニュアルは整備しているが、定期的な訓練は法人内で行なっている。又、GH協議会主催の救急法(消防署)に参加している。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	消防署の協力を経て避難訓練を実施し、避難経路の確認、消火器の使い方などの指導を受けている。又、自主訓練等も行っている		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	起こり得るリスクについてご家族の面会時などに様子を見て頂いたり、日々の状態を説明し暮らしを大切にした対応策を話し合っている		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	職員は毎日バイタルチェックを行い日頃の状態を把握しており、変化が見られた際は状態に応じて対応している		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋のコピーをファイルし、職員が内容を把握できるようにしている。薬の内容や用量が変更された場合は、ご家族にも説明をしている。服薬時は、2名以上の職員が日付け、名前を確認しており、きちんと服用出来たかの確認もしている		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	食材の工夫、水分量、適度な運動に心がけている。下剤を服用する場合は、一人ひとりの状態に合わせているが、出来るだけ自然排便出来る様に腹部マッサージ等を取り入れている		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	毎食後の歯磨きの声かけを行ない個々に応じた支援を行なっている。残歯のある方は、特に口腔内の口腔内や残歯の状態を確認し、必要に応じて支援している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事内容や個別の摂取量を記録している。体調の悪い時は、食べられる時に美味しく食べられる雰囲気作りに心がけている。別ニュー(本人の好きなもの、口あたりの良いもの等)の工夫を行なっている。嚥下の状態が悪い人にはソフティアやゼラチン等利用している		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)	感染症に関して情報収集を行い、早期発見、早期対応に努めている。インフルエンザについては、利用者及び家族に同意頂き、職員ともどもに予防接種を受けている。感染予防の勉強会に参加、手洗い励行、ペーパータオル使用等、予防対策に努めている		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	調理器具、台所水まわりの清潔、衛生を保つよう職員で取り決めて実行している。冷蔵庫や冷凍庫の食材の残りの点検や掃除を行なっている		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関入り口に花をいけたり、花壇には季節ごとの花を植え明るい雰囲気の玄関になるよう心がけている		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や居間には、季節の花や散歩で摘んで来た草花を生ける等季節を感じながら過ごせるように努めている。一人ひとりに合った座る椅子、ソファー、畳コーナー等工夫している		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下にさりげなく置いてある椅子でいつの間にか会話が弾み座談会が行われているが、時には一人ぼつんと座ることを好まれる方のために静かなスペースに椅子を配置している		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時は自宅で使い慣れていたものを持って来て頂き、家族も一緒に家具や持ち物の配置を決めたり、話し合いながらお部屋作りを行なって頂いている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気の上よみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	居室にはそれぞれ湿度計を設置。外気との温度差がある時は、温度計と利用者の様子を見ながら調整している。気候の良い時期は、網戸にして風通しを良くしている		
(2) 本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者の状態に合わせて手すりの位置や高さ、椅子やテーブルの高さ等、移住環境が適しているかを見直し、安全確保と自立への支援につながるよう努めている		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	本人にとって「何が分りにくいのか」「どうしたら自身の力で出来るのか」を見極めながら環境整備に努めている		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	プランターに季節の花を植え散歩が楽しめるよう工夫している。時には花を摘み居間や仏様にお供えている。		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者の
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいの
		<input type="checkbox"/>	④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	<input type="checkbox"/>	①毎日ある
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度ある
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまにある
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input checked="" type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族と
		<input type="checkbox"/>	②家族の2/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	③家族の1/3くらいと
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	<input type="checkbox"/>	①ほぼ毎日のように
		<input type="checkbox"/>	②数日に1回程度
		<input checked="" type="checkbox"/>	③たまに
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	<input type="checkbox"/>	①大いに増えている
		<input checked="" type="checkbox"/>	②少しずつ増えている
		<input type="checkbox"/>	③あまり増えていない
		<input type="checkbox"/>	④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての職員が
		<input type="checkbox"/>	②職員の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③職員の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての利用者が
		<input type="checkbox"/>	②利用者の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③利用者の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input checked="" type="checkbox"/>	①ほぼ全ての家族等が
		<input type="checkbox"/>	②家族等の2/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	③家族等の1/3くらいが
		<input type="checkbox"/>	④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

地域の方々に認知症についての正しい理解を深めるために、スタッフ一人ひとりがまず認知症についての理解を深めるよう努めている。そのために資格取得への奨励や、研修への参加を促進している。また、グループホーム協議会への積極的な参加を行い、地域啓発セミナー等を行っていると共に、職員研修を行っている。ターミナルケアにおいても、医療との連携や家族との連携を密にとる中で、その方の望まれる終末のあり方を共に考え実践している。認知症に関する理解が、認知症への人への理解につながり、その家族抱える悩み等の理解につながっていくよう、広い視野にたって他事業所との連携を持ちつつ今後も実践していきたい。